



コロナウィルス感染禍@2020 は、学校に何をもたらしたか？

学長 高野瀬 一晃



飛騨高山にて

以前、ソニー教育財団の理事長として、公立小・中学校への理科教育支援で全国を飛び回っていた頃、「十年、一日の如し」という言葉は、日本の公立学校の為にあるのかと驚きました。

あるイベントが開催されるとします。開会式で司会が「ご来場の皆さま、こんにちは!では、先ず開会の辞を教頭の何何先生おねがいします。」と述べると、教頭先生が静々と進み出て「では、此れより XX 年度科学教育研究の全国大会の開会式を開始致します。」とだけ述べて席に戻って行く。それから来賓挨拶等がある、また司会が「それでは、閉会の辞を教務主任の何何先生、お願いします。」と、それで教務主任の先生が出てきて「では、これを持ちまして XX 年度科学教育研究の全国大会の開会式を終了します。」と

述べる。ええ!もう閉会?ナニコレ?40 年に亘って、ビジネスに携わって来た私にとっては、司会者が「それでは、XX 年度 XX 年度科学教育研究の全国大会の開会式を開始致します。」「これで、XX 年度科学教育研究の全国大会の開会式を終了します。」と一人と言えば、効率的で、時間短縮にもなるし、第一、教頭先生や教務主任の先生が、態々出てきて分かり切った短い一文を述べる付加価値が全く無いと驚かざるを得ませんでした。実はこれが、全国どこの公立小・中学校へ行っても常識化していて、誰もこの非効率を疑う人が居ないのです。正に、「十年、一日の如し」というか、このままだと、「百年、一日の如し」でしょう。

さて、前置きが長くなりましたが、コロナウィルス感染禍@2020 は、「十年、一日の如し」の学校教育の常識に一石を投じてくれています。それは、単に対面授業の代替えとしてのオンライン授業の導入といった単純な話ではありません。オンライン授業のメリット&デメリットの実体験での検証、教員と学生とのインターフェースの在り方、教職員の職場としての学校の在り方、そして学園での働き方そのものにも改めて問いを投げかけています。また、今まで当たり前の様に実施してきた対面授業の真の重要性や価値に気付く切っ掛けにもなっています。

「いざ、働き方改革だ!」と叫ばれて久しいにも拘らず、一向に進まない教職員の職場環境や報酬や超過勤務の実態。悪影響の極みの様なコロナウィルス感染禍ですが、この様な状況を否が応でも変えざるを得ない地球規模での正のエネルギーも発散させています。是非とも、災い転じて福となすべく、このピンチをチャンスに変える努力を致しましょう。

特別号の発行について

現在、コロナ禍において、本学をはじめ、各高等学校では感染予防を徹底しながら、授業を手探りで進めている状況であると推察されます。このような状況ではありますが、学習指導要領では、生徒との対話、コミュニケーションなどを重視したアクティブラーニングが求められております。このようなコロナ禍の状況下においても、少しでも学生との対話を重視した授業内容を考案していくことが高等学校、大学においても大きな課題となっていると思われます。そこで、今回は教育研究会用に、コロナ禍における本学の授業の取り組み状況をいくつかご紹介いたします。

リベラルアーツ科目	「情報リテラシー」、「日本語リテラシー」、「生涯スポーツと健康」
総合ビジネス・情報学科	「現代社会コミュニケーション論」、「WEB 基礎」
生活プロデュース学科	「カラーとクラフト」、「子どものワークショップ演習 II」
保育学科	「音楽実技 I」、「造形表現」
教務・学生部	学生アンケート集計結果より
図書館	図書館の取り組み

リベラルアーツ科目

本学では、リベラルアーツとして、「社会や人との関係を作るためのコミュニケーション力」、「対象に興味を持ち、課題を発見し、論理的に考える力」、「状況を的確に把握し、主体的かつ柔軟に行動する力」を身に付けることを重視しています。今回は、必修科目から「情報リテラシー」、「日本語リテラシー」、「生涯スポーツと健康」の取り組みをご紹介します。

情報リテラシー

担当：小 棹 理子教授、他

学年：1 年生

授業タイプ：演習型

受講人数：19 名～47 名（クラスごとに異なる）

当初授業形態：PC 教室にて対面授業、課題、グループワーク、発表

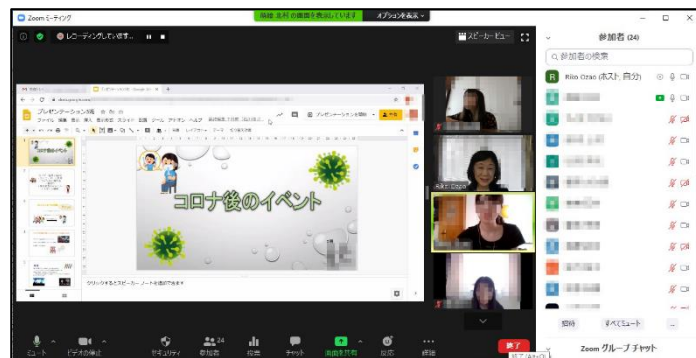
実施授業形態：オンライン授業、グループワーク、発表

「情報リテラシー」は、高度情報社会で職業を持った社会人として PC 等の情報機器やインターネットを使いこなすために必要な基本知識と技能を身につけるための科目です。アプリケーションソフトの使い方だけでなく、これらをツールとして用い、あらたな価値や知見を見出す知恵を養うことも目的としています。

新型コロナ禍にあって、すべてオンライン授業を実施しました。テキストがあれば知識の獲得は可能ですが、実技を伴う演習、とくにグループプレゼンテーションの運営に不安がありました。学生は積極的に取り組み、充実した発表が行われました。

配慮した点：

対面型授業と比してオンライン型授業で重点をおいたのは下記です。



グループプレゼンテーションの様子

- ① コミュニケーションツールとしての Eメールの活用
- ② Google ドライブ、Google フォームなどクラウドサービスの積極活用
- ③ Zoom のブレイクアウトセッションを用いたグループワーク

気づき：

例年とは異なり、試行錯誤で新たな授業設計と展開が求められましたが、コロナ後の社会ではリモートワークが増え、より一層デジタルリテラシーが重要視され、オンラインでの面接・面談・会議が増えることが予測できます。学生にとっても、教員にとっても、新たな教育形態を先行実施する良い機会となりました。

日本語リテラシー

担当：小 森 潔教授、他

学年：1、2 年生

授業タイプ：演習型

受講人数：17 名～31 名（クラスごとに異なる）

当初授業形態：対面授業、発表、グループワーク、課題、小テスト

実施授業形態：オンライン授業、発表、グループワーク、課題

取り組み：

社会人として必要な日本語運用能力を身につけるための科目です。発表、就職試験用面接練習、グループディスカッション等のオンラインでの実施には不安がありましたが、学生は積極的に取り組み、対面形式と変わらない授業ができました。なお、語彙力向上のための小テストが実施でき

ないので、その代わりに、毎回、「ことわざ」「慣用句」「四字熟語」「外来語」「名言」「珍しい名字」等々について全員に報告させましたが、これにも熱心に取り組んでいました。

気づき：

学生は思いのほか早く Zoom を活用できるよう

【演習】グループディスカッション（課題解決型のテーマ例）

- ①スーパーの売上を1.5倍にするための案を考えてください！
- ②社員の新居を1.5倍にするための案を考えてください！
- ③町長から自治体の収入を上げるために！
- ④AIに仕事を奪われるためにどんな能力を付けるべきか？
- ⑤バジナをなくすにはどうすればいいか？
- ⑥CM以外で買った商品を買ってくださいますか？
- ⑦自社のインフラを強化して業務効率を上げてください！
- ⑧若者の就職を促すための案を考えてください！
- ⑨失業のリスクを減らすための案を考えてください！
- ⑩人口の減少を食い止めるための案を考えてください！
- ⑪貧困に苦しむ人を救う方法を教えてください！

グループディスカッションのテーマ

なり、資料にも工夫を凝らした個人発表や充実したグループディスカッションが行われました。対面授業同様の学習成果が達成できたと考えています。また、社会人になってからのテレワークの練習にもなったと思います。

学年：1 年生

授業タイプ：本来は実習（実技）

受講人数：26 名～47 名（クラスごとに異なる）

当初授業形態：対面による実技と講義

実施授業形態：Zoom を使ったオンライン講義と課題

取り組み：

前期の授業テーマは、「with コロナ下での自己の健康管理維持管理」とし、授業内容を大きく変更しました。

- ・ 休校期間（自粛期間）から、「各自でできる運動を実施すること」と「感染症予防行動の意識づけ」を目的に、4 月後半から 7 月末日まで「毎日の生活記録」を継続して提出してもらい、検温と行動履歴を把握することを課題としました。方法は、Google フォームと Excel での入力提出としました。
- ・ 6 月からは、7 回分のオンライン授業で Zoom を用いて講義を行ないました。授業の内容は、自己の健康管理や感染症予防のための知識を扱いました。具体的内容は

以下の通りです。

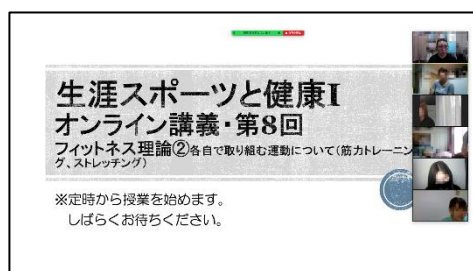
- (1) 感染症対策：感染症（コロナウイルス含）とは、感染症予防のために各自で取り組めることについて
- (2) 生活習慣病とは：生活習慣と健康との関係について
- (3) フィットネス理論：各自で取り組む運動やトレーニング（有酸素運動、筋力トレーニング・コンディショニング）
- (4) ロコモ度テスト（簡易版）の実施とロコモティブシンドロームについて

気づき：

- ・ 受講者は新入生であったため、オンライン授業を受講するためのスキルや課題の提出方法（PC やソフトを扱うことなど）から教えねばならない点が大変でした。
- ・ 授業に使用する PPT の準備や課題の回収など、授業準備や評価に非常に手間がかかりました。

今後の施策：

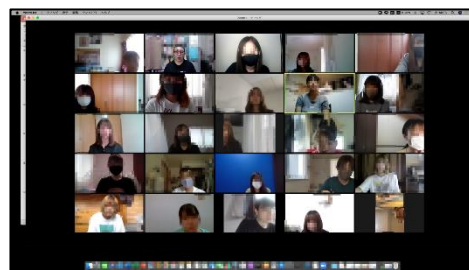
後期は with コロナ下で感染症対策に配慮しながらスポーツ実技が実施できるように準備をしています。この授業で扱ったことを生かせるような授業内容を計画中です。



Zoom 画面より



授業スライドより



授業の様子（Zoom）

総合ビジネス・情報学科

1 学年約 250 名と本学最大の学科のため、対面授業が始まってからも多くの授業でオンライン形式が続き、対面授業は週に 1 回程度と制約の多い前期となりました。オンライン授業であっても、プレゼンテーションやグループディスカッションなどを取り入れ、学生一人ひとりの力を引き出す心がけました。一方で、オンデマンド方式など個々のペースに合わせて学習できる形態の授業にも取り組みました。

現代社会コミュニケーション論

担当：飯塚 順一 教授、北川 栄里子 講師

学年：オフィスワークコース 2 年生（必修）

授業タイプ：講義型

受講人数：44 名、54 名（2 クラス）

当初授業形態：講義、グループワーク、発表

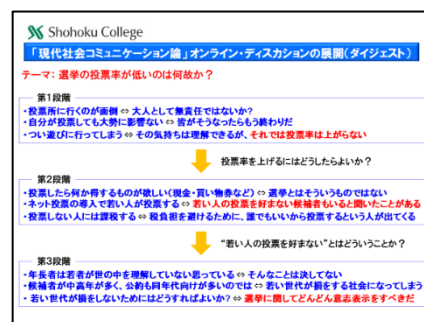
実施授業形態：4～5 月はオンライン、6～7 月は対面

取り組み：

現代社会の諸問題に向き合い、グループディスカッションを通じて今後の課題を導き出すことを目的とした 2 年生

科目です。

授業の展開は、
＜テーマ説明→ディスカッション（Zoom チャット）→振り返り＞という流れです。
最後の振り返りで大切なことは、教員が決してまとめては



ディスカッションの流れ

ならないということです。教員がまとめると、学生達はテーマに関して締めくくってしまい、以降、考えなくなってしまうからです。“どうなんだろうね?”という形で終わらせて、学生にとって気分的に落ち着かない状況にしておき、引き続き考えさせるようにすることが、この授業の大きな目的の一つです。

気づき:

ある時、オンラインでのグループディスカッションへの参加度が低い学生の意見を引き出す目的で、グループをいったん解散し、Zoom のチャット機能を使用し、各学生から受講学生全員に向けて、テーマに対する自分の考えとその根拠、今後の課題を報告させてみました。その結果、日頃は控え目な学生が、明確な意思表示をすることで他の

学生も注目し、すぐに反応する、さらに他の学生が答える、指導者である私が飛び交うフレーズの中からキーワードを拾い上げ、再び考えさせるという理想的な流れが出来上がりました。

教室内の授業では意思表示を躊躇する学生も、チャット上では堂々と意見を述べる姿勢はネット世代の一つの特徴といえます。また、グループ編成をしなくとも、活発なディスカッションが可能であることを発見できたのは、まさに怪我の功名でした。

このような社会の影響を受けて、制約された状況下だからこそ、見出すことができた好例だと考えています。今後も、そのような事例を見逃すことなく、指導に取り組みたいと思います。

WEB 基礎

担当：高木 亜有子 准教授

学年：情報メディアコース メディアデザインフィールド
1 年生（必修）

授業タイプ：演習型

受講人数：31 名

当初授業形態：対面

実施授業形態：Zoom でのライブ配信、動画でのオンデマンド方式

取り組み:

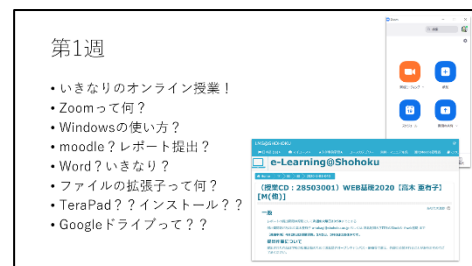
- ・オンライン授業になるとわかった時点で IT 系の Slack を用意しました。Slack 上で教員や学生がやり取りできるので、大きな混乱なくオンライン授業ができたのだと思います。
- ・わからなかったところを後で見なおせるように、授業内容を動画に記録して共有しました。
- ・自分のペースで進められるよう、あらかじめ動画を録画しておいて配信する「オンデマンド方式」も採用しました。

気づき:

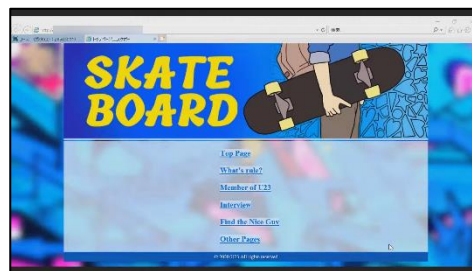
- ・学生の進捗状況把握のため、授業終了時に、「今日どこまで進みましたか?」というアンケートを実施していました。目標まで到達できず、遅れている学生が 1/3 はいたように感じました。一方、目標を達成して、オプション課題まで取り組む学生もいましたので、学生の進み具合は対面でもオンラインでも変わらないかな…という印象です。
- ・遅れた学生がその後なかなかキャッチアップできずに、遅れたままにしている学生が多い印象です。恐らく、対面授

業であれば、気軽に友達に助けを呼んだり、周りの状況が見えるので、「やらなきゃ」というモチベーションが働くと思うのですが、オンラインだと周りの状況が見えないので、「やらなくてもいいや」という感じだったのかもしれない。

- ・メディアデザインフィールドの学生は貸与 PC が手元にあるので、様々なツールを使ってグループワークができました。オンライン授業の際には受講者側にも PC が必須だと感じます。
- ・最終発表会を Zoom と YouTube を使ってライブ配信しました。他の先生方にも視聴いただけたので良かったです。
- ・本当に紆余曲折ありましたが、大変な状況でもなんとかついてきた 1 年生には大感謝です。



最終発表会のスライドより



完成した作品

5つのコースそれぞれが実技・演習系の授業を多く抱える本学科では、授業時期の変更や時間割の組み直し・授業内容変更など、様々な部分で大きな変更を余儀なくされました。しかし、各授業において試行錯誤と工夫を重ねてオンラインと対面授業を上手く組み合わせ、前期の授業を実施しました。また、学科での学生指導では、学生とのコミュニケーションを大切にしながら、就職活動や生活面のサポートを丁寧に行いました。

カラーとクラフト

担当：三塚 由美子 講師

学年：1年生（選択）
授業タイプ：演習
受講人数：25名
当初授業形態：対面
実施授業形態：オンラインと対面の複合型

取り組み：

講義の部分はオンラインで3回実施、対面授業が可となってから、当初の順番を入れ替えて密にならない「クラフト」の部分の先に、次に「パーソナルカラー」のグループワークの部分を行いました。

気づき：

- ・三密には配慮をしていましたが、グループが6名だったため、授業が盛り上がってくるとやや密になってしまうことが見受けられました。

- ・学生には好評で、とても楽しい授業だったようです。前半のクラフト制作は「カギ針編み」を行いました。ほぼ全員が初体験だったにも関わらず、最後には満足のいく作品ができ、達成感を得られたようです。
- ・後半のパーソナルカラーは、似合う色を探す内容で、こちらとても楽しみながらできたようですが、やや三密が気になりました。



パーソナルカラーの授業

子どものワークショップ演習 II

担当：沖潮 満里子 講師

学年：2年生（選択）
授業タイプ：演習
受講人数：28名
当初授業形態：対面、グループワーク、実習
実施授業形態：オンライン授業・オンラインワークショップ

取り組み：

例年は、厚木市内の小学生を湘北短大に招いてワークショップを開催していましたが、今回はオンラインワークショップを実施しました。オンラインでの実施は学生にとっても初体験であったため、Zoomの利用に慣れることを目的に、授業前半ではワークを多く取り入れ、その後の学生の企画につなげるようにしました。

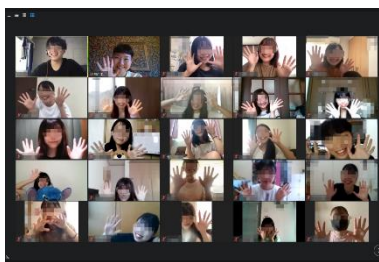
気づき：

小グループ内での画面上の活動であったため、誰もが集中してワークショップに参加できていました。ま

た、小学生の発言の機会も均等に与えられ、楽しめている様子でした。

ワークショップの成果：

申込34名、参加者25名でした。Webサイト(Peatix)にて日本全国の小学生を集めようとしたところ、海外からも多数申し込みがあったのはありがたいことでした。しかし、時差の関係で、当日参加ができなかった児童もいたのは残念でした。参加者はとても楽しめたようで、終了後のアンケートも多くの高評価をいただきました。



授業



オンラインワークショップ

幼稚園教諭免許、保育士資格の取得に必要な科目が多い保育学科では、6月13日の一斉授業開始以降、オンライン授業や課題提出、授業組み換えなどの工夫を凝らして授業を展開してきましたが、7月6日より感染防止策を取りながら対面授業が再開しました。

音楽実技Ⅰ

担当：赤井 裕美准教授、他

学年：1年生（必修）

授業タイプ：演習型

受講人数：48～49名（全3クラス）

当初授業形態：ピアノ教室での演習

実施授業形態：オンライン授業→ピアノ教室での演習

取り組み：

- ・対面授業開始前は、Zoomを使ってオンラインでリアルタイム授業を行いました。全員への指導の他、ブレイクアウトルーム機能を使い、個別指導も行いました。
- ・ピアノの準備ができない学生には、ロールピアノを郵送しました。
- ・対面授業開始後は、当初より広いピアノ教室を使用したり、複数教室に分けて授業を行いました。
- ・授業前後に机、椅子、ピアノなど、学生自身が消毒を行うよう指導しました。
- ・ピアノについてはアルコール等薬剤が鍵盤を傷めるため、

教員のみが消毒を行いました。個人レッスン室には電子ピアノを配置し、学生が自主練習・消毒を行えるようにしました。

気づき：

- ・オンライン授業での個別指導は、対面の授業より学生一人一人により向き合うことができました。一対一で話すことで、心配事などの相談にも乗ることができました。担当教員7人でなんとか対応した甲斐がありました。
- ・個人レッスン室に電子ピアノを置くことにより、イヤホンを使用して練習ができたため、窓やドアを開放し、密を避けることができました。



個人レッスン室



弾き歌いの授業

造形表現

担当：小野 修平講師

学年：1年生（必修）

授業タイプ：演習型

受講人数：48～49名（全3クラス）

当初授業形態：ものづくりや表現活動を基本とすることから、教員の講義と解説をもとに、各自が自身の制作に取り組む形となっていました。

実施授業形態：密を避けた対面授業

取り組み：

- ・コロナ問題を抱え、密を避けるために実施教室と机の数を増やすことで対応しました。また、各机には梱包素材とクランプで透明なパーテーションを設置、抗ウイルススプレーとシートも設置することで、飛沫と接触による感染対策を徹底しました。
- ・二つの教室で同時進行する形式になりましたが、各教室に造形担当教員を配置、互いのPCをZoomで繋ぎ、各

部屋のスクリーンに映し出すことで、これまでの実施内容とほぼ遜色なく提供する点を工夫しました。

気づき：

学生にとって一人分のスペースが広がったことで、余裕をもって制作に臨むことができました。また、透明ではあるものの、パーテーションで区切られたことにより、例年より制作に集中する姿が見られた点も印象的でした。しかし、使用する道具一つ一つの消毒の徹底に時間を費やす事、通信環境による音声の不具合等、課題も挙げられます。



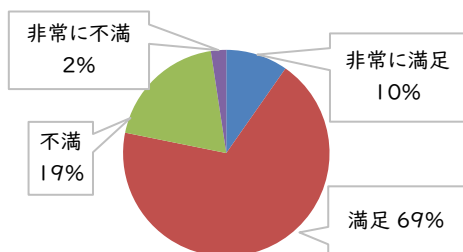
パーテーションで区切った作業スペース

前期の終わりに、今後の授業改善および教育環境の向上のため、「オンライン授業に関するアンケート」を全学科・学年の学生を対象に行いました。集計結果よりいくつかを紹介します。(グラフの数値は小数第一位で四捨五入しています)

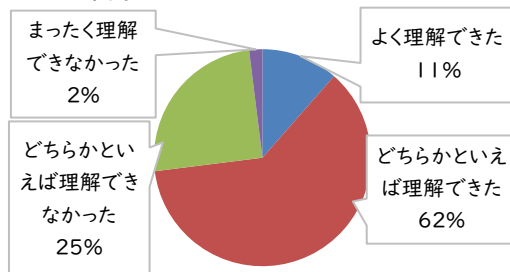
実施期間:7/23(木)~8/2(日) 回答率: 90.2%

1. 受講したオンライン授業全般について、満足度を4段階で評価してください。
2. 受講したオンライン授業について、授業内容の理解度を4段階で自己評価してください。
3. オンライン授業を受講する際に、最も利用した機器は以下のどれですか？(一つだけ選択)
4. オンライン授業では、どの程度「課題」が課されていますか？
5. オンライン授業で課された課題に対して、先生からの「フィードバック」がどのくらいありますか？
- 6-1. Zoom でのライブ授業時に不満を感じたポイント(複数選択)
- 6-2. オンライン授業全般で教材・手段に不満を感じたポイント(複数選択)
7. オンライン授業で不安に思っていることや困っていることについて、選択してください。(複数回答)
8. オンライン授業で良かったと思うことについて、選択してください。(複数回答)

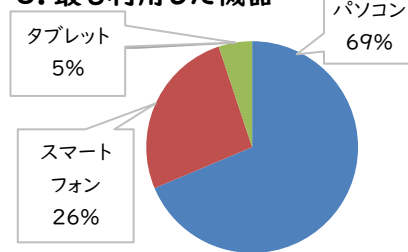
1. 満足度



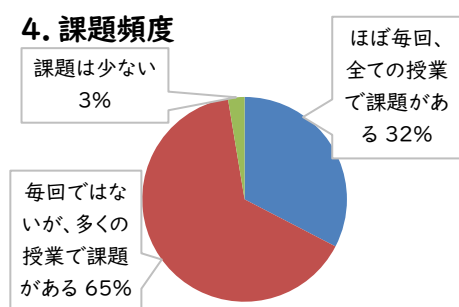
2. 理解度



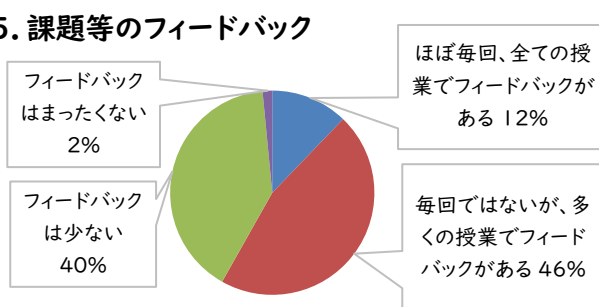
3. 最も利用した機器



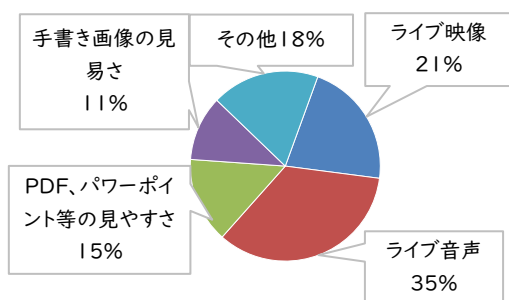
4. 課題頻度



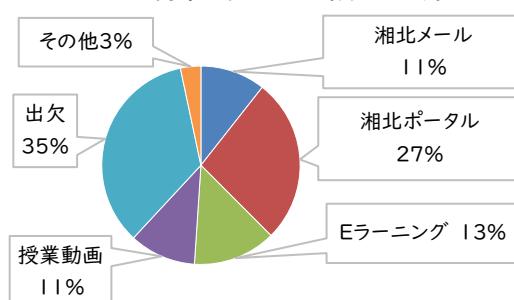
5. 課題等のフィードバック



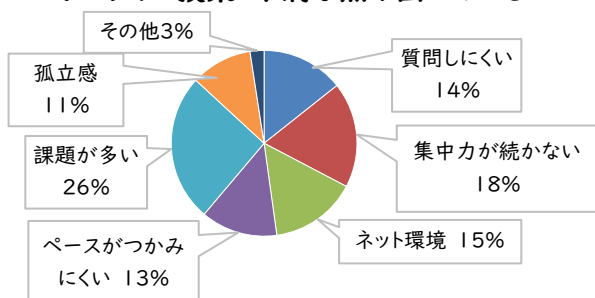
6-1. オンライン授業:不満ポイント



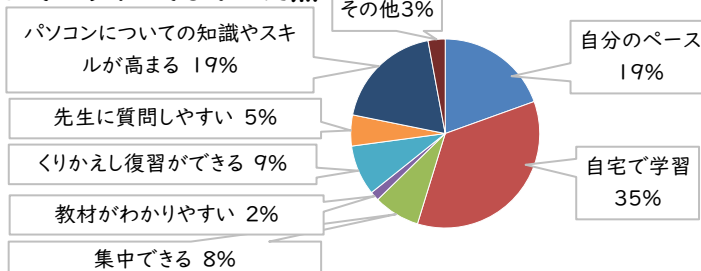
6-2. オンライン授業:教材・手段の不満



7. オンライン授業:不満な点や困っていること



8. オンラインでよかった点



例年は、4 月に「新入生ガイダンス」で図書館の利用を促し、「コミュニケーションリテラシー(入学前授業)」や「情報リテラシー」の授業を図書館で行い、「春の読書ノートキャンペーン」で読書への動機づけ…、となるところが、今年度は大学への入構禁止で図書館も閉館を余儀なくされました。対面授業が再開してから、感染防止対策のため、制限付きで開館している状況です。そのような中、今だからこそ図書館としてできることはないかと模索し、取り組みを続けています。

・ Twitter での配信「今は司書も読書中」



(「自粛期間だからこそ、読書を!!」の想いを込めて)

・ 閉館期間中の保育学科 2 年生への貸し出し



教育実習に行く学生のために、予約制で時間を区切って貸出を行いました。

・ オープンスペースの限定利用



通常はわいわいとグループワークができるオープンスペースですが、テーブルを離し、椅子を減らし、密にならない

ような配置にしました。また設置 PC も数を減らし、ソーシャルディスタンスが確保



できるような努めました。

視聴覚コーナーをオンライン授業受講用に開放

普段は学生が空き時間

に DVD を観に来るスペースですが、感染防止のために使用禁止としています。パーティションで個別に区切られた空間を利用して、PC・イヤホン・ヘッドホン持ち込みを条件に授業利用に開放しました。

・ IT コンシェルジュのサポート業務をオンライン化

通常、図書館で課題やレポートをする学生に PC 操作などをサポートする IT コンシェルジュですが、自宅で勉強しているときにも気軽に問い合わせができるように、メールや Zoom での相談受付を開始しました。

・ 図書館ホームページの更新

学外からでも利用できる機会を増やすために、調査・研究に役立つ手引きなど、コンテンツを追加しています。

前期を終えて

リベラルアーツセンター長 内海 太祐教授

今年、コロナ禍が突然世界中に拡大しました。連携校の先生方も多くのご苦勞があったことと推察いたします。湘北短期大学でも、4 月からの変化は高野瀬学長の言葉を逆にして借りると「一日、十年の如し」の勢いでした。本学の教員は「一人の学生も置き去りにしない」という目標のもと授業を運営しました。

すべてがうまくいったわけではありません。様々な問題はあり、不満を感じた学生もいます。しかし、オンライン教育に新しい可能性を見出した教員も多くいました。コロナ禍によって、「実は目の前にあった未来」が突然現実になってしまったかのような印象を受けた方も多いと思いますが、新しい変化は新しい機会も生み出します。

この号は、コロナ禍での本学教員の苦闘の一端を皆さんにご紹介する場となりました。また、連携校の皆さまのコロナ禍での授業・課外活動の試みも、是非ご紹介いただけますと幸いです。この交流の取り組みが、まだしばらく続くと思われる「with コロナ」の日々で教育に携わる連携校の皆様のヒントとなることを願っています。

湘北短期大学リベラルアーツセンター

(担当: 北野・高橋・熊谷)

〒243-8501 神奈川県厚木市温水 428
TEL: 046-247-3131 / FAX: 046-247-3667
E-mail: LAC@shohoku.ac.jp
URL: <http://scopp.shohoku.ac.jp/>
Twitter: https://twitter.com/shohoku_lac



湘北
ナビットくん

高大連携通信 特別号

発行日: 2020 年 9 月 11 日

発行元: 湘北短期大学

リベラルアーツセンター